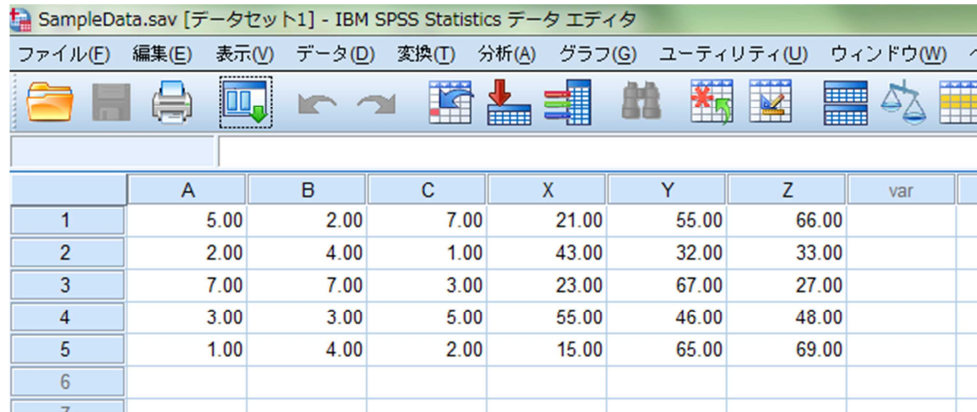


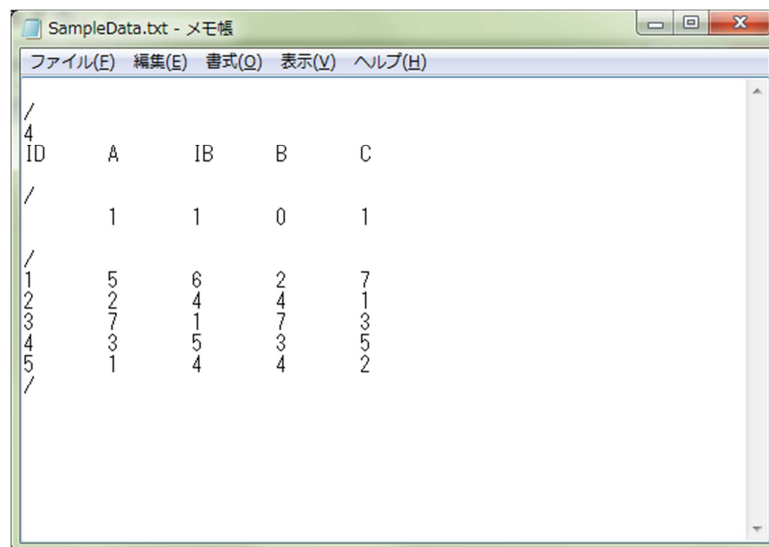
SPSS データファイルの Excel とメモ帳による変換

図 1 の S P S S データファイルから Excel とメモ帳を使って図 2 のファイルを作成する。



	A	B	C	X	Y	Z	var	
1	5.00	2.00	7.00	21.00	55.00	66.00		
2	2.00	4.00	1.00	43.00	32.00	33.00		
3	7.00	7.00	3.00	23.00	67.00	27.00		
4	3.00	3.00	5.00	55.00	46.00	48.00		
5	1.00	4.00	2.00	15.00	65.00	69.00		
6								
7								

図 1



```

/
4
ID    A      IB    B      C
/
1      1      0      1
/
2      5      6      2      7
3      2      4      4      1
4      7      1      7      3
5      3      5      3      5
5      1      4      4      2
/
  
```

図 2

図 2 のようなファイルを作成する手順は、以下のようである。

(1) SPSS のデータファイルを Excel 用ファイルに変換して Excel で読み込む。(2) 読み込んだファイルを Excel の機能を使って編集し、編集結果をメモ帳が扱えるテキストファイルとして保存する。(3) テキストファイルとして保存したファイルをメモ帳で読み込んで最終的な仕上げを行いテキストファイルとして保存する。

以下に手順 (1) から (3) までの具体的な詳しく説明する。

SPSS ファイルの Excel 用ファイルへの変換

図 1 の SPSS のデータファイル*.sav を Excel で読み込めるファイルに変換する。「ファイル | 名前を付けて保存」メニューを選んで表示されるダイアログボックス（図 3）において、「次のタイプで保存します」欄をクリックして表示されるファイルタイプのメニューから Excel のものを選ぶ。

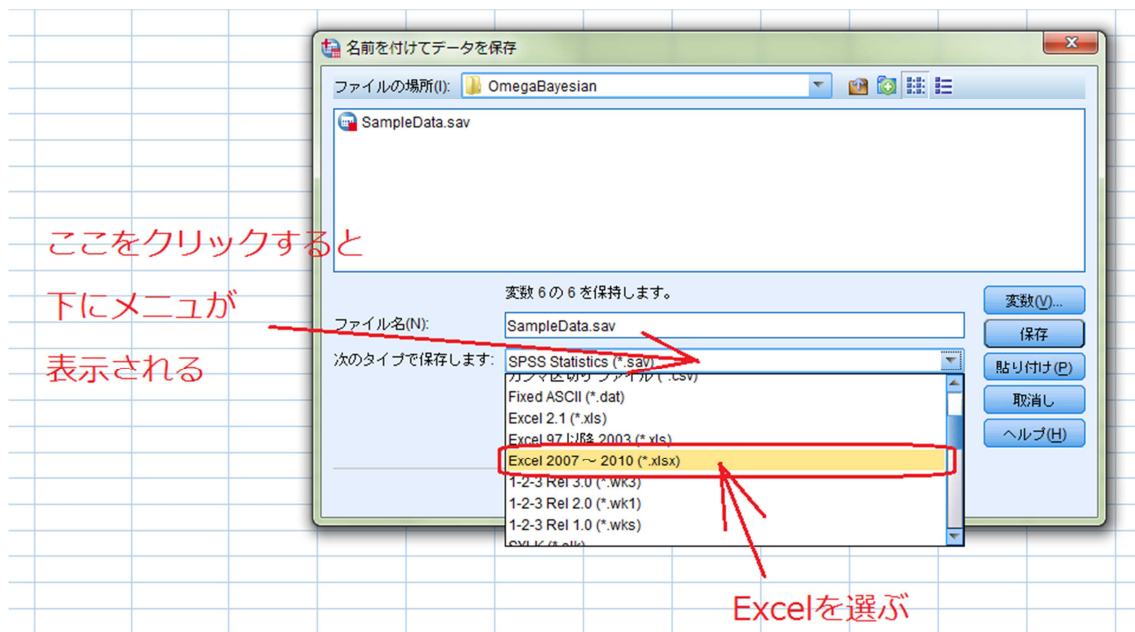


図 3

Excel のファイルタイプを選ぶと、「ファイル名」欄に Excel ファイルの拡張子の付いた

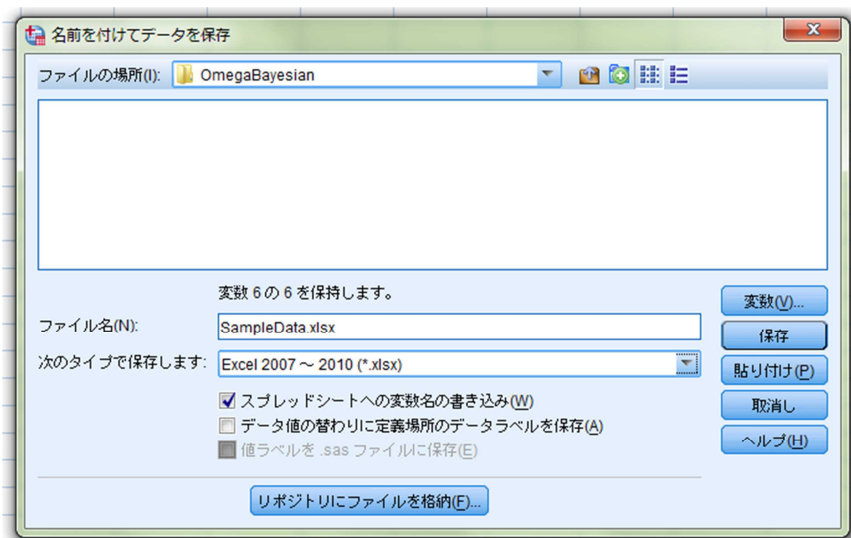


図 4

ファイル名が設定される（図 4）。この名前での場合は、「保存」ボタンをクリックする。

他の Excel 用ファイル名で保存するときは適宜変更して設定する。

「保存」ボタンをクリックして Excel 用ファイルを保存したら SPSS を終了する。終了手続きのときにいろいろ問い合わせのダイアログが表示されるが、「保存」とか「Yes」とか適当に選んでクリックしていくと SPSS の終了となる。

Excel による編集

図 4 における名前で保存した Excel ファイルを開くと図 5 のようになる。図 1 のデータ

	A	B	C	D	E	F	G
1	A	B	C	X	Y	Z	
2	5	2	7	21	55	66	
3	2	4	1	43	32	33	
4	7	7	3	23	67	27	
5	3	3	5	55	46	48	
6	1	4	2	15	65	69	
7							

図 5

に対応していることが確認できる。変数 X、Y、Z の欄を削除するために、それらの変数に対応する列をマークする（図 6）。マークは、図 6 の場合、「D」の記号のセルをクリックし

	A	B	C	D	E	F	G
1	A	B	C	X	Y	Z	
2	5	2	7	21	55	66	
3	2	4	1	43	32	33	
4	7	7	3	23	67	27	
5	3	3	5	55	46	48	
6	1	4	2	15	65	69	
7							
8							

図 6

てから Shift キーを押しながら「F」の記号のセルをクリックすればよい。マークした後、列の削除（図 7 ; 「削除」の箇所をクリックするとメニューが表示される）をすると図 8 のようになる。

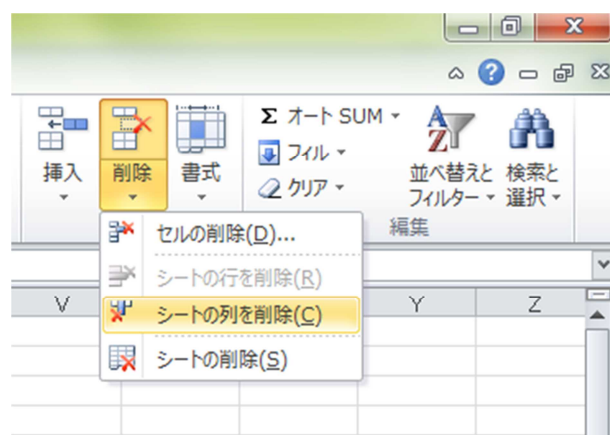


図 7

	A	B	C	D	E
1	A				
2		5	2	7	
3		2	4	1	
4		7	7	3	
5		3	3	5	
6		1	4	2	
7					
8					

図 8

次に、左の列に、データの通し番号（通しラベル）用の列を挿入する。まず、Excel の一番左の列（列 A）をクリックしてマークする（図 9）。

	A	B	C	D
1	A			
2		5	2	7
3		2	4	1
4		7	7	3
5		3	3	5
6		1	4	2
7				
8				

図 9

「挿入」 から「シートの列を挿入」を選ぶ（図 10）。左端に新しく空白の列が挿入され

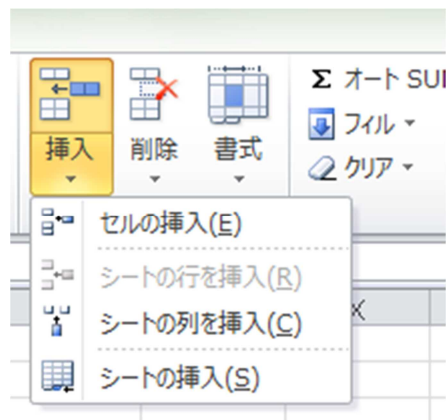


図 1 0

る (図 1 1)。

	A	B	C	D	E
1		A	B	C	
2		5	2	7	
3		2	4	1	
4		7	7	3	
5		3	3	5	
6		1	4	2	
7					

図 1 1

通し番号を入力するために以下の操作を行う。

A2		fx 1			
	A	B	C	D	E
1	ID	A	B	C	
2	1	5	2	7	
3	2	2	4	1	
4		7	7	3	
5		3	3	5	
6		1	4	2	
7					
8					

図 1 2

列 A の 1 行目に通し番号用の変数名を設定する。図 1 2 では ID が設定されている。2 行目に 1 を、3 行目に 2 を設定する。列 A の 2 行目をクリックしてから、Shift キーを押しながら 3 行目をクリックすると図 1 2 のように 2 行目と 3 行目がマークされる。

	A	B
1	ID	A
2	1	
3	2	
4		
5		
6		
7		
8		

図 1 3

マークされた 3 行目の右下の黒い小正方形をクリックしてデータの最終行である 6 行目までドラッグする（図 1 3）。クリックしているボタンを離すと図 1 4 のように通し番号が設定される。

	A	B	C	D	E
1	ID	A	B	C	
2	1	5	2	7	
3	2	2	4	1	
4	3	7	7	3	
5	4	3	3	5	
6	5	1	4	2	
7					
8					

図 1 4

定される。

次に、変数 B が逆転項目であるとして、変数 B の値を逆転した変数 IB を用意することを考える。変数 IB 用の列を変数 B の列の左に挿入するため、まず変数 B の列（列 C）をクリックしてマークして（図 1 5）、「挿入」で「シートの列を挿入」を選ぶ（図 1 6）。

	A	B	C	D	E
1	ID	A	B	C	
2		1	5	2	7
3		2	2	4	1
4		3	7	7	3
5		4	3	3	5
6		5	1	4	2
7					

図 1 5

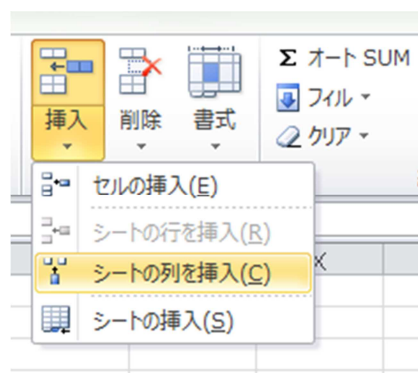


図 1 6

変数 B の左側に空白の列が挿入される (図 1 7)。

	A	B	C	D	E	F
1	ID	A		B	C	
2		1	5		2	7
3		2	2		4	1
4		3	7		7	3
5		4	3		3	5
6		5	1		4	2
7						
8						

図 1 7

1 行目に変数 B の逆転項目用の変数名、例えば IB を設定する (図 1 8)。

	A	B	C	D	E	F
1	ID	A	IB	B	C	
2		1	5		2	7
3		2	2		4	1
4		3	7		7	3
5		4	3		3	5
6		5	1		4	2
7						
8						

図 1 8

次に、変数 IB に変数 B の値を逆転したもの

$$IB = 8 - B$$

を設定する。変数 B の値は 1 から 7 までの範囲であると想定している。これを逆転するために 8 から変数 B の値を引いている。

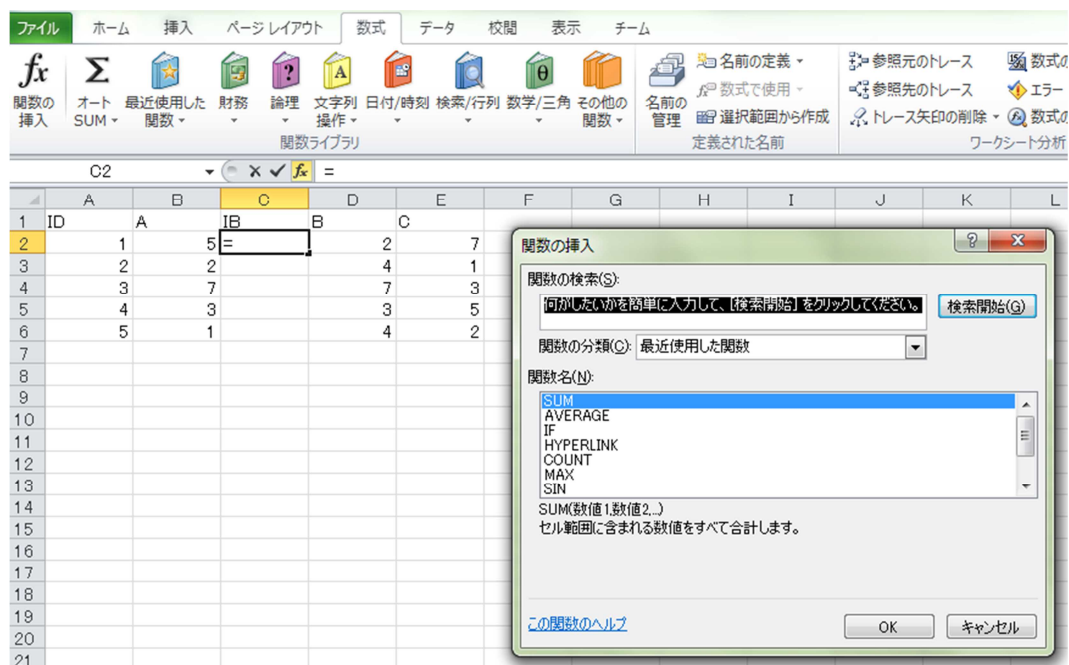


図 1 9

変数 IB の列 (C 列) の第 2 行をクリックして、「数式」の「関数の挿入」をクリックして表示されるダイアログボックスにおいて、関数名「SUM」を選び「OK」ボタンをクリックする (図 1 9)。「関数の引数」ダイアログボックスが表示される (図 2 0)。

変数 IB の第 1 番目の値（セル C2）が変数 B の第 1 番目の値 2（セル D2）を 8 から引いたものとなるように、「数値 1」に 8 を、「数値 2」にセルの位置 D2 にマイナスの記号を付

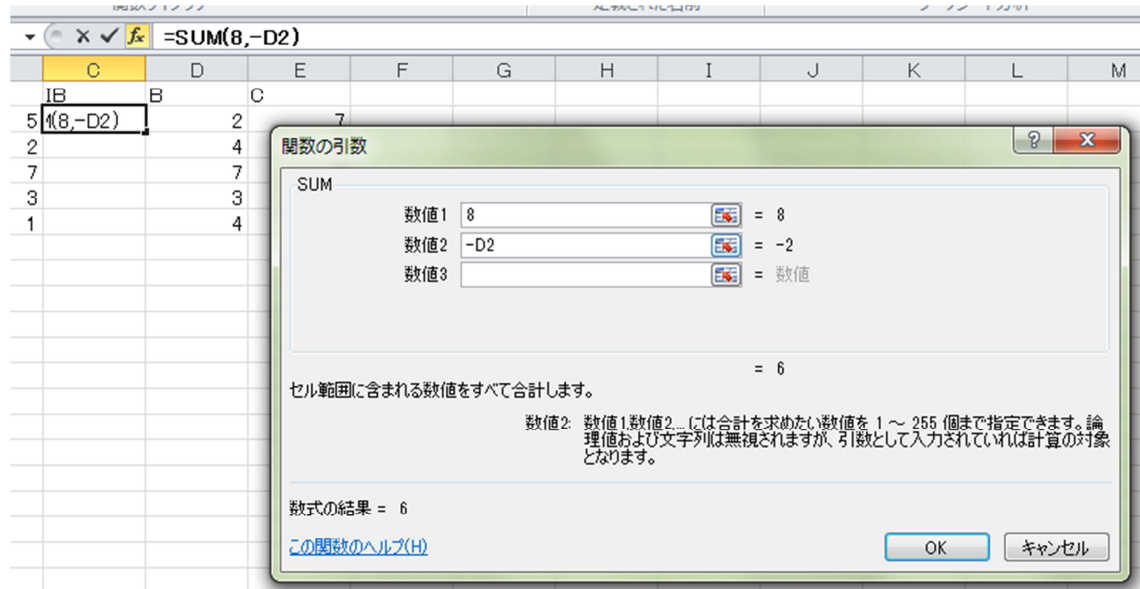


図 2 0

けたものを設定する。「数値 3」などの欄は、値を設定していくと自動的に増えていく。図 2 0 の状態で「OK」ボタンをクリックすると図 2 1 の状態になる。変数 B の値 2 を逆転し

C2		fx		=SUM(8,-D2)		
	A	B	C	D	E	F
1	ID	A	IB	B	C	
2	1	5	6	2	7	
3	2	2		4	1	
4	3	7		7	3	
5	4	3		3	5	
6	5	1		4	2	
7						

図 2 1

た「 $8 - 2$ 」すなわち 6 が表示されている。

次に、セル C2 に設定されている数式を 3 行目以下にコピーする。このコピー操作では、変数 B の列 D との関係は自動的に調整されて、セル Ci には「 $8 - Di$ 」が設定される。まず、セル C2 をマウスの右ボタンでクリックする。表示されるメニューから「コピー」を選ぶ（図 2 2）。「コピー」を選ぶと太い黒線で囲まれた部分は動く破線で囲まれる。

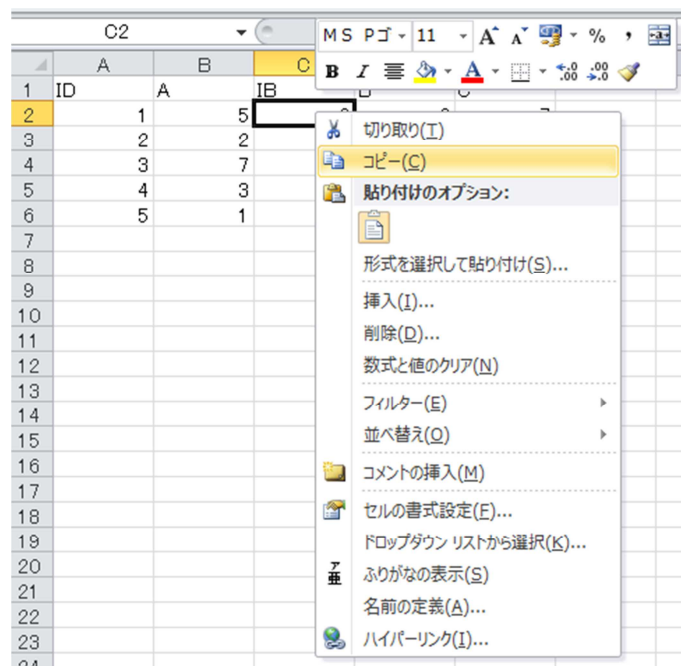


図 2 2

コピー先をマークする（図 2 3）。これは、コピー先の一番上のセルをクリックしてから、

	A	B	C	D	E	F
1	ID	A	IB	B	C	
2		1	5	6	2	7
3		2	2		4	1
4		3	7		7	3
5		4	3		3	5
6		5	1		4	2
7						
8						
9						

図 2 3

一番下のセルを **Shift** キーを押しながらクリックすると設定できる。マークした領域内をマウスの右ボタンでクリックして表示されるメニューから「貼り付けのオプション」の下に「数式」（図 2 4 において赤丸で囲まれたアイコン）を選ぶ。図 2 5 に示されているように、コピーされた数式によって値が設定されて、変数 IB の列は変数 B の値の逆転されたものが表示される（図 2 5）。

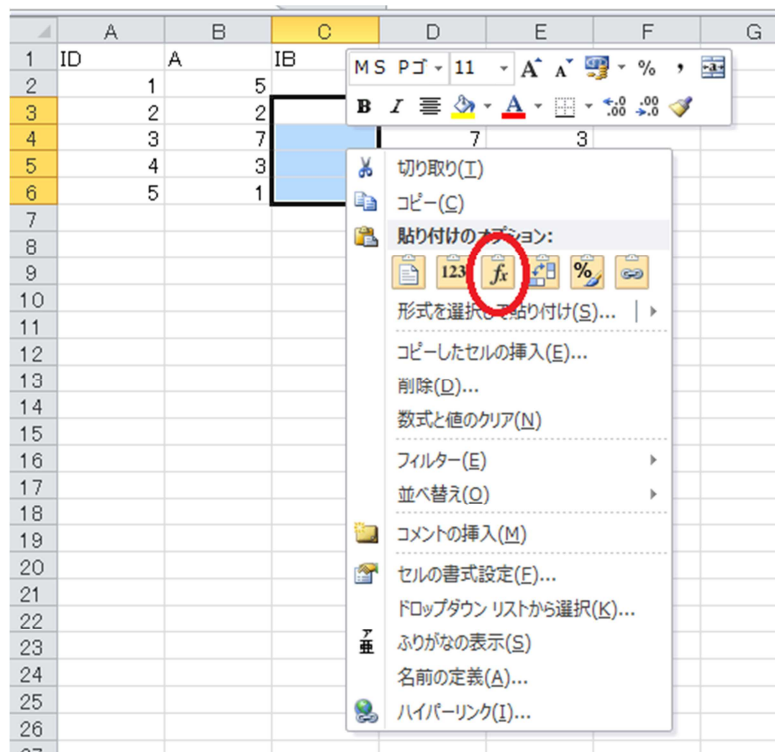


図 2 4

		C3		fx =SUM(8,-D3)			
	A	B	C	D	E	F	
1	ID	A	IB	B	C		
2		1	5	6	2	7	
3		2	2	4	4	1	
4		3	7	1	7	3	
5		4	3	5	3	5	
6		5	1	4	4	2	
7							
8							
9							

図 2 5

次に図 2 5 の Excel のデータをメモ帳で扱うために、テキストファイルとして保存する。
Excel のメニュー「ファイル | 名前を付けて保存」を選ぶ (図 2 6)。



図 2 6

表示されたダイアログボックスの「ファイルの種類」のセルをクリックして表示されるメニューから、「テキスト（タブ区切り）(*.txt)」を選ぶ（図 2 7）。

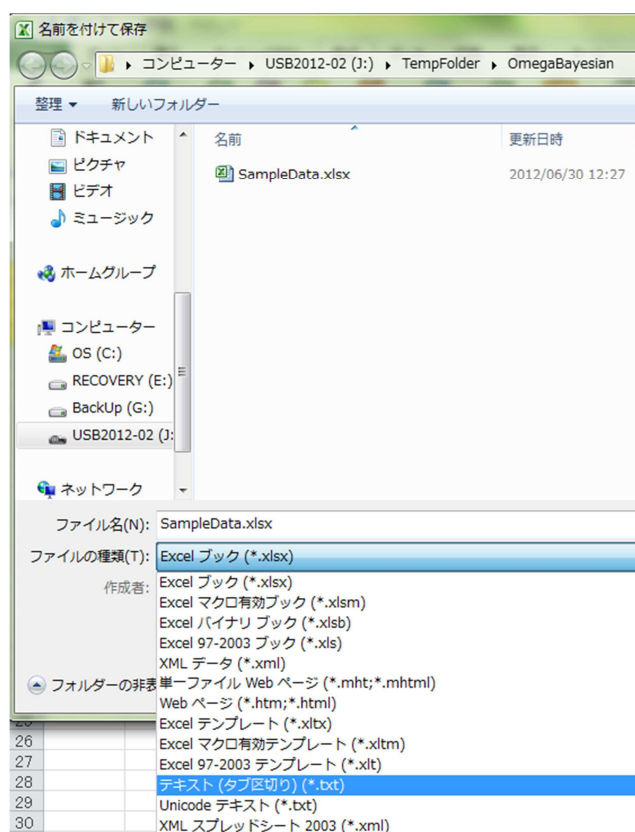


図 2 7

図 2 7 の選択でファイル名の拡張子が「.txt」に変更される（図 2 8）。表示されたファイル名でよければ「保存」ボタンをクリックして保存する。他のファイル名を用いるときは、適当に設定して「保存」ボタンをクリックする。ただし、ファイルの拡張子は「.txt」を用いる。



図 2 8

保存時に警告メッセージボックス（図 2 9）が表示されるが、「OK」ボタンをクリックして先に進む。

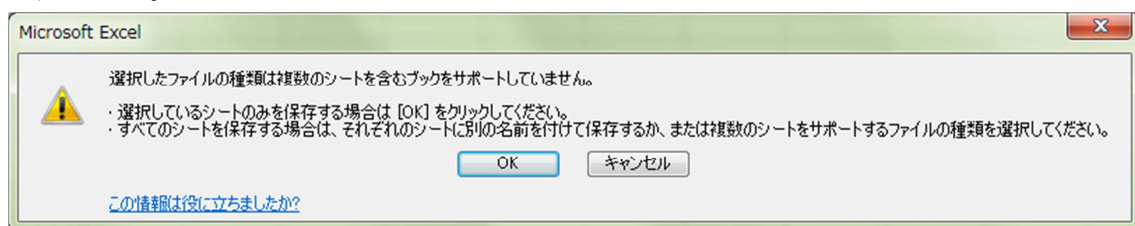


図 2 9

Excel を終了するときも、いろいろなメッセージボックスが表示されるが、適宜ボタンを選べばよい（Yes とか OK とか保存などを選ぶ）。

メモ帳による編集

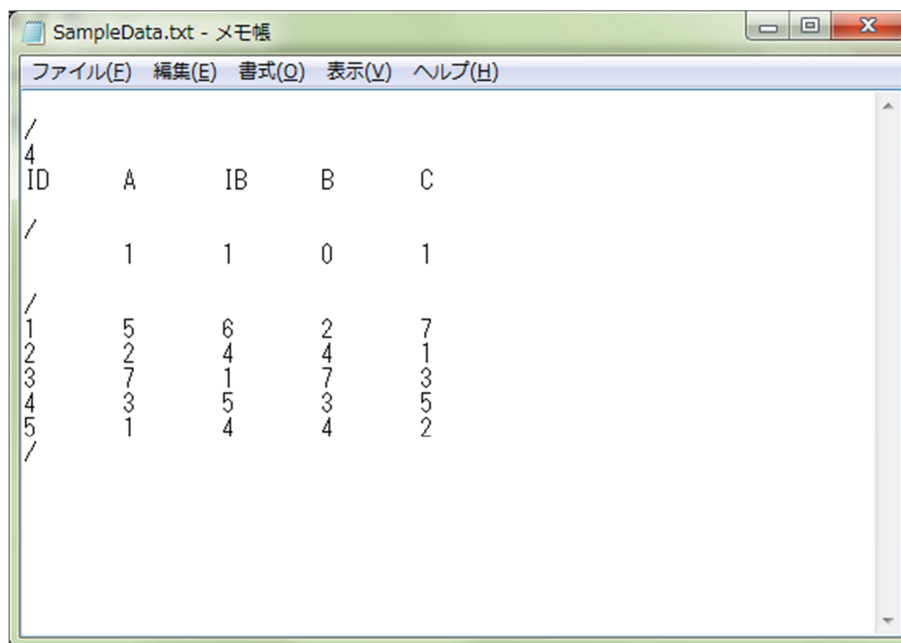
Excel で図 2 8 におけるファイル名で保存したファイルをメモ帳で開くと図 3 0 のようになる。



ID	A	IB	B	C
1	5	6	2	7
2	2	4	4	1
3	7	1	7	3
4	3	5	3	5
5	1	4	4	2

図 3 0

図 3 0 の内容を係数オメガを算出するプログラムの入力ファイルの形式に合わせて図 3 1 のように編集する。



ID	A	IB	B	C
1	5	6	2	7
2	2	4	4	1
3	7	1	7	3
4	3	5	3	5
5	1	4	4	2

図 3 1

図 3 1 の画面では、読み込み変数の数は A、IB、B、C の 4 個（先頭の ID は含めない）である。信頼性係数オメガは、その変数に対して 1 が対応している A、IB、C について算出される。ただし、図 3 1 の例は、ファイル操作（SPSS ファイルから係数オメガを算出するプログラム用入力データファイルを作成する操作）のためのもので、数値自体は適当に設定したものでありオメガの算出には不適切なものである。図 3 1 のものをそのまま入力データとして用いてはならない。入力データとして用いるときは、図 3 2 のように値を少し変更する必要がある。



ID	A	IB	B	C
1	5	6	2	7
2	2	4	4	1
3	2	1	7	3
4	7	5	3	5
5	1	4	4	2

図 3 2